

「笠松友の会」の日帰り旅行。

風が肌に染みる2011年11月24日、それでも晴天には恵まれました。まずは名古屋高速を走り、最初の目的地である「リニア・鉄道館」を目指しました。車内では各々お話をされながら過ごされていました。館内には懐かしい汽車・電車から、最新のリニアモーターカーの試作機などが展示されており、皆様物珍しそうに見学されていました。子どもたちと童心にかえった大人たちで、館内は平日の朝からとても賑わっていました。次は「キリンビール工場レストラン」です。ビール工場だけあって、コース料理の内容はビールのおつまみ的なものが多く、別途ビールを注文して飲まれる方もいらっしゃいました。

最終目的地は「アサヒビール工場」です。工場見学の後にはビールの試飲ができ、用意された2種類のビールを飲み比べたりして楽しんでみえる方もいらっしゃいました。最後はお土産コーナーで、あまり市場には出回らない珍しいビールや、ビールを使用したお菓子などを沢山購入することができました。今回も笑顔の多い旅行となりました。黄金色のビールに映る笑顔——。皆様の頬が赤らんでいたのは、決してビールのせいだけではないはずでしょう。



去年はコチラへ行きました!

講習会・イベントのご案内

第13回 市民公開講座

一般向け

日時:3月31日(土) 13:30~16:00

場所:じゅうろくプラザ 2Fホール

(JR岐阜駅中央北口より徒歩約2分)

テーマ1:『え?ロボットが手術するの?』

~太陽が手術、腹腔鏡からロボット手術の時代へ~

講師:松波総合病院 外科部長 小林 建司先生

テーマ2:『松波総合病院における』

ロボット支援前立腺全摘除術の初期経験』

講師:松波総合病院 泌尿器科副部長 萩原 徳康先生

第66回開放型病床カンファランス

医療関係者向

日時:3月1日(木) 18:00~20:00

場所:松波総合病院 3階講堂

テーマ:『薬剤耐性菌制御の為に抗菌薬適正使用』

講師:金沢医科大学 臨床感染症学 教授 飯沼 由嗣先生

第80回すこやかネットワーク

医療関係者向

日時:3月21日(水) 19:00~20:00

場所:松波総合病院 3階講堂

テーマ:『骨粗鬆症の診断と治療における最近の話題』

講師:松波総合病院 整形外科部長・関節外科センター長 福田 雅先生

かかりつけ医院のご紹介

羽島郡 北田内科クリニック

内科 小児科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前8:30~12:30	○	○	○	○	○	○	●
午後4:00~ 7:00	○	○	○	○	○	—	—

休診日
日曜日・祝日・土曜日午後
〒501-6018
岐阜県羽島郡北田町
下印食2-45
☎ 058-278-1030
FAX 058-278-1031

院長:北田 雅久

当クリニックは糖尿病・高血圧・高脂血症の治療を中心に、地域のかかりつけ医としての健康相談と管理を行っています。スタッフ一同、アットホームで親身になって相談にのれる医療をめざしています。



お気軽にお問い合わせください。

☎ 058-388-0111
http://www.matsunami-hsp.or.jp/



当院は、病院内・敷地内
全面禁煙です。
皆様方のご理解とご協力
をお願いします。

松波総合病院 〒501-6062 岐阜県羽島郡北田町代185-1

患者さまと
病院をつなぐ
かけはし
No.149
MATSUNAMI

まつなみ

2012
3
発行
社会医療法人
蘇西厚生会

Clinical Talk

慢性副鼻腔炎の内視鏡手術

慢性副鼻腔炎とは、いわゆる蓄膿症のこと。かつて副鼻腔炎の手術は痛くて辛い手術という印象がありましたが、今は痛みや出血の少ない内視鏡手術が主流。術後の腫れもなく、治療成績も良好です。そこで、永井裕之先生に、慢性副鼻腔炎の内視鏡手術について話を聞きました。



松波総合病院
耳鼻咽喉科部長 永井裕之
専門分野:耳鼻咽喉科全般
認定資格:日本耳鼻咽喉科学会:
専門医・補聴器相談医

慢性副鼻腔炎ってどんな病気?

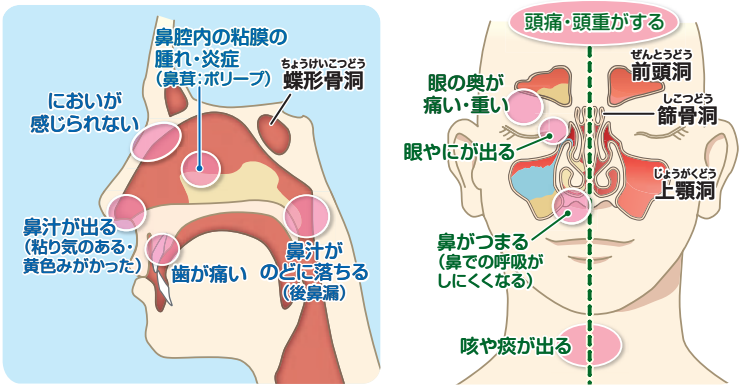
鼻の周囲には副鼻腔とよばれるたくさんの空洞があります。この空洞内を覆う粘膜が炎症を起こすのが副鼻腔炎で、短期間に進行する急性副鼻腔炎と、長期にわたる慢性副鼻腔炎があります。副鼻腔炎が慢性化すると、鼻の中の粘膜がきのこ状に膨れあがって、鼻茸というポリープになり、鼻腔をふさいで、鼻づまりの症状に拍車をかけます。

慢性副鼻腔炎の治療法は?

慢性副鼻腔炎の治療は、病気の程度や鼻茸の有無などに合わせて、適切な治療を選択します。軽度の場合は薬の内服(抗生物質や炎症をおさえる薬など)や、吸引で膿を吸い取って鼻の中をきれいにするなどの治療を行います。このような治療法で症状が改善しない場合や、鼻茸ができていて薬の力では治らないという場合は、手術による治療を検討します。20~30年前は歯茎を切ってほっぺの骨をノミで削って鼻腔にたまった膿や粘膜を取り出すという手術が一般的で、手術後に顔面が腫れたりしびれたり、辛い思い出を持った方が多くいらっしゃいます。しかし現在は内視鏡による手術が主流となっており、骨を大きく削ったり、粘膜を根こそぎ切り取ることはありません。

慢性副鼻腔炎の主な症状

副鼻腔とは、頬、額、目のまわりの骨の空洞部分のことを言います。



出血や痛みが少なく、患者さまにやさしい内視鏡手術。

内視鏡手術は、局所麻酔(もしくは全身麻酔)の後に鼻の穴から内視鏡を入れ、モニター画面を見ながら鼻腔内のポリープ(鼻茸)を一つひとつ切除し、副鼻腔と鼻腔の通路を広げて空気や分泌物の出入りを良くします。内視鏡手術の利点は、出血や痛みも少なく、術後の回復も早いこと。従来の手術のように術直後に顔が腫れたり、頬がしびれるなどの後遺症もありません。さらに最近では、マイクロデブリッターという、鼻茸や膿を吸引しながら細かく削り取る画期的な装置が開発され、従来の除去方法より安全確実な上に、手術時間も大幅に短縮されました。手術時間は両側で約1時間半。入院期間も、従来手術では3週間ほどだったのが、1週間ほどで退院できます。



▼高速回転する刃で、鼻茸や病的な粘膜を吸引しながら削り取るマイクロデブリッター。

▲患者さまに負担の少ない内視鏡下副鼻腔炎手術風景。マイクロデブリッターや内視鏡画像をより鮮明に映し出すハイビジョンカメラなど、最新の装置を導入することで、より安全で正確な手術ができるようになりました。

術後は薬物療法を継続して再発を防止。

副鼻腔炎の内視鏡手術では、手術をしたら治療が終わりではありません。手術後はマクロライド系の抗生物質を少量長期投与(普通の量の1/2を約3ヶ月間)して、残った病変をしっかりと治すことが必要です。根気よく治療を続けることで、慢性的蓄膿の粘膜が正常の粘膜に戻っていきます。なかなか良くならないからと自己判断で薬をやめてしまう人がいますが、医師の指示のもとで粘り強く治療することが完治につながります。

「こんにちは 8階病棟です。」

「何かをしてあげる」のではなく「自然に手をさしのべる」。そんな看護をめざしています。

8階病棟は消化器外科・呼吸器外科・心臓血管外科の混合病棟で、ベッド数は60床。ほとんどの患者さまが手術目的の入院です。看護スタッフは総勢35名。手術を受けられる患者さまには安心して入院生活を送れるように、また終末期のケアでは、患者さまが安全・安楽に治療が受けられ、自分らしく日常生活が送れるよう、温かな病棟の雰囲気づくりを心がけています。



看護師長 佐藤 裕子

手術で寝たきりにしない。歩いてきた患者さまは歩いて帰っていただく。

手術を受けられる患者さまで多いのは、消化器外科では大腸がん、結腸がん、肝臓がん、胆石。呼吸器外科では肺がん、心臓血管外科では下肢バイパス手術など。また、乳がんの患者さまもおられます。手術前には必ずオリエンテーションをして、患者さまの不安にひとつひとつ応えながら、不安なく手術に臨んでいただくように、また、手術後はできるだけ早期に離床し、合併症を起こすことなく回復して退院できることを目標に看護を行っています。通常では、手術の翌日にはベッドから降りて歩く手助けをします。手術をしたばかりで傷が痛いのは確かですが、寝たきりしていると、肺炎を起こしたり、おなか詰まったりして、結果として入院が長引いてしまうことがあるためです。

チーム医療で、早期退院と退院後の生活をサポート。

早期離床・早期退院に向けては、例えば栄養サポートチームが病棟をまわって患者さま一人ひとりの栄養状態を評価し、低栄養状態になっている患者さまには適切な栄養管理を行ったりします。また、薬剤師が新しく入ってくる患者さまの飲んでいるお薬を確認し、今回の入院のために使用するお薬との効き目や副作用を説明するなど、多職種のスタッフが協力



「大丈夫だよ。頑張っただよ。」これから手術室へと向かう患者さまに声をかけるスタッフ。

しあって患者さまの治療・療養生活をサポートしています。また、人工肛門を造設する患者さまや患者さまや患者さまの不安軽減、受容できるようサポートをし、患者さまが退院後の生活に自信をもってから退院できるような看護を心がけています。

患者さまが笑顔で退院される姿が、私たちスタッフの元気のみなもと。

平均在院日数7~8日、短い方は1泊2日と、入院が多く忙しい病棟ではありますが、だからこそ心配りを忘れず、いつでもどんなときでも「自然に手がさしのべられるような看護」ができれば、と思っています。だから、スタッフにも、例えばナースコールで呼ばれて6人部屋に行ったら、ナースコールで呼ばれた患者さまの対応だけで帰ってくるのではなく、他5人の患者さまにもこちらから声をかけたり、様子をうかがってくるなどの心遣いをしてほしいなと思っています。患者さま一人ひとりの出会い、関わりを大切に、これからもスタッフみんなで力を合わせて頑張っていきたいと思います。



女性ばかりの8階病棟は、「若さと明るさ」がウリ。元気いっぱいスタッフが、患者さま一人ひとりの出会い、関わりを大切に看護にあたっています。

ロタリックス

ロタリックスとは、昨年に発売された乳幼児のロタウイルス感染による胃腸炎を予防するためのワクチンです。生後6週~24週までの赤ちゃんにしか投与できません。ロタウイルス胃腸炎は以前「白色便性下痢症」と呼ばれ、赤ちゃんの嘔吐下痢症の代表格でした。日本では6歳未満の小児の年間約80万人(うち1割が入院)が、ロタウイルス胃腸炎に罹患していると推計されています。ロタウイルスに感染すると、通常は胃腸炎をおこし、嘔吐・下痢を認めます。なかには脱水症状に陥ってしまうこともあります。点滴や入院加療で多くは後遺症を残さずに

治癒します。しかし重症化すると、神経系の合併症である脳炎・脳症を引き起こすことがあり、神経系の後遺症を残すことも稀にあります。ロタリックスは、ロタウイルス胃腸炎の予防効果が約90%といわれており、その効果は少なくとも2歳までは持続することが確認されています。ちなみにロタウイルスの重症化は2歳未満など低年齢の子に多いです。ただし、ロタウイルスワクチンの効果には神経系合併症の予防については記載されていません。ですが、感染しなければ神経系合併症には至らないわけですから、ロタリックスを接種することをお勧めします。

小児科副部長 岩田 格子

専門分野：小児循環器疾患(先天性心疾患)、小児一般
認定資格：日本小児科学会：専門医
日本アレルギー学会：専門医
所属学会：日本小児科学会、日本アレルギー学会
日本循環器学会、日本小児循環器学会



作業療法編



中井作業療法士の

リハビリ まめ知識

自助具を使って 楽な食事を

今回は数ある自助具の中でも食事に役立つ自助具についてご紹介します。自助具ってなに?と思われる方もいらっしゃると思います。自助具とは自分で身の回りの事が行えるように工夫して作られた器具・道具のことをいいますが、単に障害のある方が使用するだけでなく、誰もが手軽に使えるように工夫されています。

太柄握りスプーン



脳卒中や交通事故などの後遺症で握力が弱くなり、スプーンが使いにくい方もいらっしゃると思います。そんな時は円柱状のスポンジをスプーンの柄に差し込みます。

柄が太くなったことで握力が僅かしかなくても楽にスプーンを握れ、食べやすくなります。

自助食器



次は反り返し付き皿について紹介します。スプーンは握れるものの、食べ物がかみつきにくいと思われている方も多くいます。この時反り返しの付いた皿なら底が広く安定しており、内側に湾曲しているため楽に食べ物をすくうことができます。自助具を使用することで、今までよりもっと楽に食事が摂れます。又、自分で食べる喜びも感じることができると思いますので、ぜひみなさんもお試ください。

知ってトクする 岩田薬剤師の

くすりのお話し



「花粉症のお薬について」

花粉症は、体内に入った花粉を「敵」と勘違いして攻撃することで起こります。花粉を攻撃するために「ヒスタミン」や「ロイコトリエン」といった物質が体内から放出されます。これがくしゃみ中枢や、分泌中枢、粘膜の血管を刺激することで、くしゃみ、鼻水、鼻づまり、目のかゆみといったような症状が出ます。花粉症に使用される薬には、以下のようなものがあります。
・抗アレルギー薬…ヒスタミンなどの発生を抑えます。花粉の飛び始める前から飲むことで、予防的効果が期待できます。

・抗ヒスタミン薬…すでに発生してしまったヒスタミンの働きを抑えます。市販薬によく見られます。これらの薬は副作用で眠気を催すことがあるので注意が必要です。点眼や点鼻では眠気などの副作用を減らすことができます。
・ステロイド…ヒスタミンによって引き起こされた粘膜の炎症を鎮めます。また免疫等の組織の反応性を低下させる作用もあるため、アレルギー反応も抑えられます。ステロイドは副作用が心配という方が多いと思いますが、点眼・点鼻では全身に対する作用はほとんどありません。